

体育の授業で、気を付けていますか、こんなこと！

体育の授業中、「これってどうやるんだろう？」や「これで正しいのかな？」と思うことがあると思います。今回は、体育の授業でぜひ実践してほしいことを紹介します。

① 「予令」と「動令」や集団行動

号令は、声の大きさとともに、「予令」と「動令」のかけ方にも工夫が必要です。「予令」から、次の「動令」までに、間をとることが大切です。間をとることで、子供は心の準備ができ、号令に合わせて動けるようになります。集団行動がスムーズにできると、体育の授業の中で運動する時間を確保することができます。

「前へ・・・ならえ」

予令

動令

「予令」と「動令」の間に、間をとみましょう。

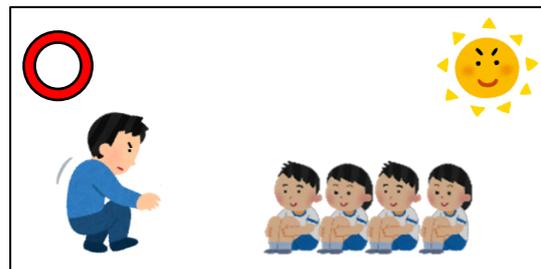
集団行動について校内で共有していますか？

- ①全体、体操の隊形に・・・開け
- ②元の隊形に・・・集まれ
- ③前へ・・・ならえ ④右へ・・・ならえ
- ⑤右向け・・・右 ⑥まわれ・・・右
- ⑦腰を・・・おろせ などがよく使われていますね。

② 児童に話をするとき

運動場で児童に話をするときに、**太陽の位置を気にしていますか**。教師が太陽に背を向けて話をしていると、児童はまぶしくて、話に集中するのはとても難しいです。

また、**児童との距離**や**目線の高さ**にも注意し、**全員が教師の方を向いているか**確認しながら話をするようにしましょう。児童との距離が離れすぎたり、児童が教師の方を見ていなかったりすると、**指示が通りにくくなってしまいます**。また、距離が近すぎたり、児童の目線が上に向きすぎたりしていると、**話を聞き続けることが難しくなります**。その他にも、児童が教師の話に集中できるように、**児童の状況を把握しながら話をする**ことが大切です。



③ 声掛けの仕方

児童の取り組みに対して、どんな声を掛けることが効果的なのか悩みますね。そんなときには、「**つけたい力**」を意識した**声掛け**を周りの児童にも聞こえるようにしてみましょう。周りの児童も意識をして運動に取り組むようになります。例えば、跳び箱で「両足でしっかり踏み切って跳ぶ力」をつけたいときには・・・

助走から**両足で**
しっかり踏み切って
跳べるようにしたい。



両足がそろっていて、踏
み切り板の音がバンって聞
こえる、いい踏切だったね。

